5 空港を生かした地域の魅力づくりとは?

静岡県の魅力を発信

スカイフォレスト

旅客ターミナル2階には、静岡県や空港周辺市町の観光・産業情報を発信する「スカイフォレスト」があります。

しずおか茶おもてなしコーナー（呈茶コーナー）

日本一のお茶の産地静岡県ならではのおもてなしにより、お茶に関する様々な話題をスタッフと楽しみながら、静岡茶を味わうことができます。

静岡県観光PRコーナー

旅客ターミナル1階の国内線到着口付近に観光案内スタッフを配置するとともに、静岡県内各地の観光パンフレットを置き、観光の魅力をPRしています。

f-air

旅客ターミナル2階の「f-air」では静岡の名物やお土産を販売しています。その一角では、地元の牧之原中学校の生徒が作った「学園茶」が新茶のシーズン等に販売されています。

静岡新聞 平成25年（2013年）5月24日掲載記事

“茶娘”が新茶PR

牧之原中生が振る舞う

静岡空港

牧之原市東萩間の牧之原中はこのほど、学校茶園で摘採し製茶した新茶を、東名高速道牧之原サービスエリアで販売した。茶娘などに扮（ふん）した生徒たちが新茶をPR

学校茶園で栽培した新茶を入れる生徒たち＝静岡空港

した。

1日に摘採した生葉180キロを、地元の業者に依頼して製茶し、50グラム500円で販売。456パック全てを完売した。収益は学校茶園の管理費などに充てるという。

静岡空港では、生徒たちが自らお茶を入れ、搭乗客などに振る舞った。両会場で同校の吹奏楽部がコンサートを開き、新茶シーズンを盛り上げた。

同校では総合学習の一環として、茶の栽培、生産、販売などを通して地場産業への理解を深めるとともに、キャリア教育に力を入れている。

静岡新聞 平成25年（2013年）5月9日掲載記事

茶畑、名刹

富士山静岡空港まきのはらウオーク

400人巡る

「世界お茶まつり 春の祭典」に合わせ、牧之原市はこのほど、同市の静岡空港を発着点とする「富士山静岡空港まきのはらウオーク」を開いた。快晴の中、約400人がウオーキングを楽しんだ。

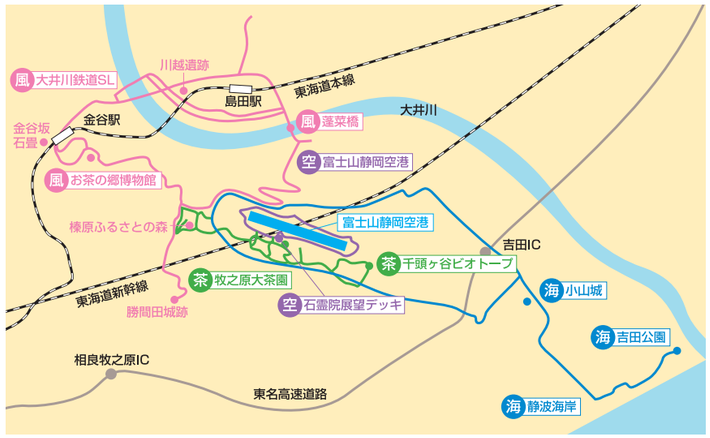
空港周辺の風景を楽しんでもらおうと企画した。一番茶の摘採を終えた茶畑や曹洞宗の名刹（めいさつ）龍門山石雲院、静岡空港東側の展望広場を巡る計10キロの道のりを、参加者はそれぞれのペースで歩いた。

ゴール地点ではJAハイナンが推進するブランド被覆茶「望」や、牧之原の新茶が振る舞われ、新茶シーズンを満喫していた。

約400人が参加した富士山静岡空港まきのはらウオーク＝牧之原市の静岡空港

空港ティーガーデンシティ構想

富士山静岡空港は日本を象徴する富士山を望み、東に駿河湾、西に浜名湖があり、そして空港周辺には茶どころ静岡を象徴する牧之原大茶園など、豊かな観光資源を有しています。県では富士山静岡空港の魅力を向上させ、更なる利活用の促進を目指して「空港ティーガーデンシティ構想」の実現に向けた取り組みを進めています。



空の道

空港敷地内の「空の道」は空港を間近に眺める石雲院展望デッキを中心とした全長7.5km。

茶の道

空港周辺の森やビオトープを結ぶ全長20km。

風の道

島田市の金谷坂石畳、お茶の郷博物館、大井川鉄道、木造歩道橋として世界一の長さを誇る蓬莱橋などを巡る全長33.5km。

海の道

吉田公園から牧之原市などを巡り空港周辺に至る全長23km。

石雲院展望デッキ

平成25年2月16日オープン。空港のほぼ中央、滑走路に最も近い場所に位置し、間近で迫力ある航空機の離着陸を見ることができる他、天気の良い日には、滑走路越しに富士山や駿河湾、伊豆半島まで一望できます。また、地元有志の協力で、無料でお茶のおもてなしを行う「呈茶コーナー」もあり、空港を訪れた人々の憩いと交流の場となっています。遠足や写生大会などの学校行事や、コンサートや 演劇などの文化的なイベントなど、アイデアを活かして楽しく利用できるスペースです。

ソラノワ実行委員会

平成24年1月に発足。「ソラノワ」とは「空の輪／和」であり、空港が繋ぐ交流の「輪」と連携の「和」がイメージされています。空港周辺地域で商業、農業、サービス業などを営む様々な人達が 空港やその周辺などのイベント(あおぞらマーケットや地域の素材を活かしたデザートの販売)を通じて、空港を活かした地域の活性化や静岡を訪れる人々との交流を進めています。

あなたの暮らす地域の魅力を富士山静岡空港でPRする方法を考えよう!!

もっと知りたい! Q&A

Q.富士山静岡空港や周辺地域を楽しむコツは?

A.富士山静岡空港のホームページで、イベント情報や航空機の離着陸時間をチェックしてから行きましょう。スカイフォレストでも周辺市町の観光情報を入手できます。季節によって表情を変える空港周辺の豊かな自然を家族でドライブしてみよう!